

令和7年8月1日

予察情報7-13

病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

野菜				果樹				
作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（穂いもち）	並	並	野菜	白ねぎ	さび病	少ない	—
	紋枯病	並	—			黒斑病・葉枯病	少ない	—
	ごま葉枯病	並	—			ネギアザミウマ	多い	—
	斑点米カメムシ類					ネギハモグリバエ	少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—			シロイチモジヨトウ	多い	—
	アカスジカスミカメ	多い	—	果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類	少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	多い	—			りんご	褐斑病	やや少ない
	クモヘリカメムシ	やや多い	—		輪紋病		並	—
	ツマグロヨコバイ	並	—		炭疽病		やや少ない	—
	ヒメトビウンカ	やや多い	—		ハダニ類		多い	—
	セジロウンカ	並	—		カイガラムシ類		少ない	—
	トビイロウンカ	並	—		日本なし		黒星病	やや少ない
	コブノメイガ	並	—			ハマキムシ類	多い	—
大豆	葉焼病	やや少ない	—			ナシヒメシンクイ	やや多い	—
	紫斑病	やや少ない	並			ハダニ類	多い	—
	ウコンノメイガ	少ない	—		カイガラムシ類	やや多い	—	
	フタスジヒメハムシ	並	—		ぶどう	べと病	やや少ない	—
	アブラムシ類	並	—			黒とう病	やや少ない	—
	ハスモンヨトウ	やや多い	—		かき（三社）	フジコナカイガラムシ	多い	—
	吸実性カメムシ類	多い	—		もも	モモハモグリガ	少ない	—
	ハダニ類	多い	やや早い			ナシヒメシンクイ	やや多い	—
野菜全般	アブラムシ類	少ない	—	花き	きく	きくの黒斑病・褐斑病	少ない	—
	ネキリムシ類	やや多い	—			花き全般	アブラムシ類	少ない
					タバコガ類		多い	—
					ネキリムシ類		やや多い	—

発生量 多い : 平年比 141%以上 やや多い : 平年比 121%以上 140%以内 並 : 平年比 80%以上 120%以内 やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内 少ない : 平年比 59%以下	予報時期 早い : 平年値より 6 日以上早い やや早い : 平年値より 3～5 日早い 並 : 平年値を中心として前後 2 日以内 やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い 遅い : 平年値より 6 日以上遅い
予報の根拠中の (+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(－) : 少くなる要因 (早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。	

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月 20 日調査の葉いもち発病株率は 0.1%で、平年（0.0%）並であった。（±）
 - ・ 8月 25 日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：33～34 ページ参照



図 1 穂いもちり病穂

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月 20 日調査の発病株率は 0.1%で、平年（1.6%）より低かった。（－）
 - ・ 8月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・ 8月 25 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：30～31ページ参照



図 2 紋枯病り病株

3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月 20 日調査の発病株率は 0.3%で、平年（0.4%）よりやや低かった。（－）
 - ・ 8月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 適切な水管理の励行等により稲体の活力維持に努める。
 - ・ 防除指針：35 ページ参照



図 3 ごま葉枯病り病葉

4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

（１）予報内容 発 生 量：多い

（２）予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は4.9頭で平年（3.0頭）より多く、確認地点率は51％で平年（43％）並であった。（＋）
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

（３）防除対策

- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・ 病虫害発生予察注意報第3号、防除指針：43、45～46ページ参照

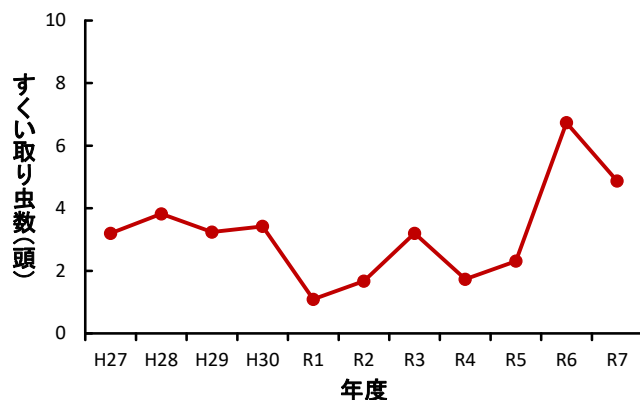


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地
すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図5 アカヒゲホソミドリカスミカメ

5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は7.8頭で、平年（2.0頭）より多く、確認地点率は47%で平年（23%）より高かった。（+）
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針：43、45～46ページ参照

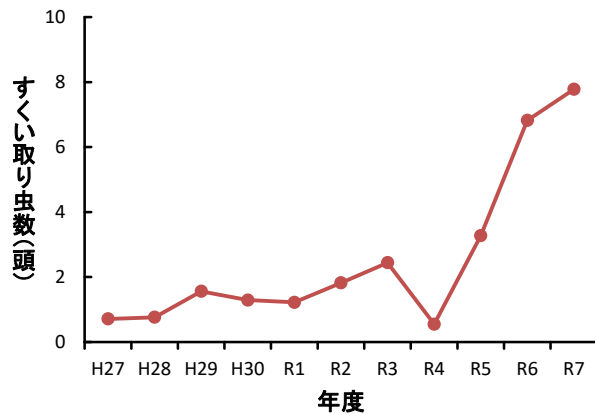


図6 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図7 アカスジカスミカメ

6 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.3頭で、平年（0.1頭）より多く、確認地点率は22%で平年（10%）より高かった。（+）
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
- ・ 防除指針：44～46ページ参照

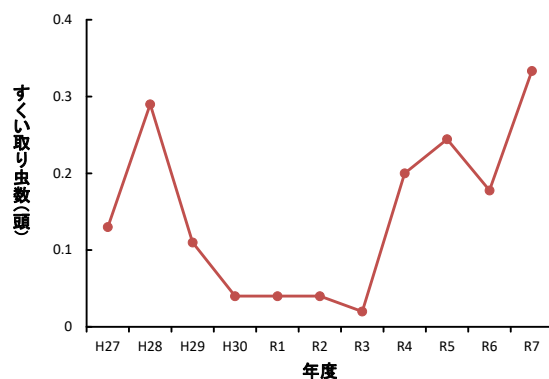


図8 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図9 トゲシラホシカメムシ

7 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.04頭で、平年（0.05頭）並で、確認地点率も2.2%で平年（2.4%）並であった。（±）
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ クモヘリカメムシは成虫及び水田内で孵化した幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割籾をしていなくても加害するので、発生の多い地域では品種に問わず穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 病虫害発生予察注意報第3号、防除指針：43～46ページ参照

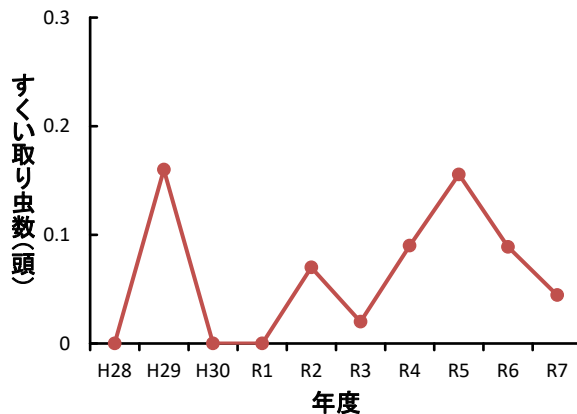


図10 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図11 クモヘリカメムシ

8 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査のすくい取り虫数は1.6頭で、平年（3.0頭）より少なかった。（－）
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：40ページ参照



図12 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

9 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は2.7頭で、平年（2.8頭）並であった。（±）
 - ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：41ページ参照

10 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.1頭で、平年（1.1頭）より少なかった。（－）
 - ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：41ページ参照

11 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月31日）。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：41ページ参照

12 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない。（平年の初発は8月1日）
- (3) 防除対策
 - ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針：42ページ参照

Ⅱ 大 豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の発病度は0.1で、平年(0.4)より低かった。(－)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 発生初期に防除する。
 - ・ 防除指針：56 ページ参照



図 13 葉焼病の典型的な症状(左)
発病程度別病徴(上)

2 紫斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6～7月の降水量は平年より少なかった。(－)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 2回の基本防除(8月2～3半旬と4～5半旬)を徹底する。
 - ・ 防除指針：55 ページ参照

3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の被害株率は1.1%で、平年(16.2%)より低かった。(－)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・ 幼虫による葉巻の発生量を確認し、7月6半旬における1本当たりの平均葉巻数が6個以上の場合は、8月上旬まで(若・中齢幼虫期)に遅れず防除を実施する。
 - ・ 防除指針：56 ページ参照



図 14 ウコンノメイガ幼虫による葉巻き

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の払い落とし虫数は0頭で、平年(0.04頭)並であった。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 払い落とし調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期(8月上旬～9月上旬)に防除する。
 - ・ 防除指針：58 ページ参照



図 15 フタスジヒメハムシ成虫

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.5%)より少なかった。(－)
 - ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：57 ページ参照



図 16 葉に寄生するアブラムシ

6 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数は68.6頭で、平年(83.9頭)並であった。(±)
 - ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：58 ページ参照



図 17 ハスモンヨトウ幼虫

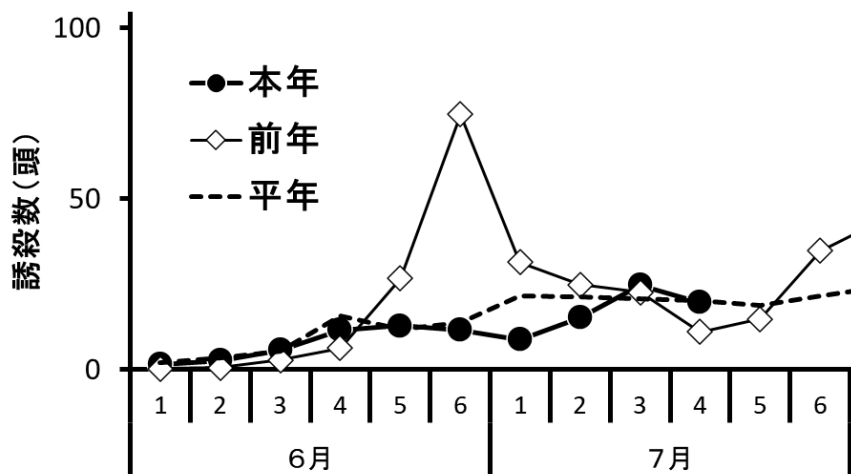


図 18 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

7 吸実性カメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の払い落とし虫数は 0.39 頭で、平年 (0.09 頭) より多かった。(＋)
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 成虫侵入期の 8 月中旬頃 (莢伸長期) と成虫侵入盛期から 2 週間後の 8 月下旬 (子実肥大期) の防除を徹底する。
 - ・ 多発が懸念されるほ場では、発生状況に応じて追加防除を行う。
 - ・ 防除指針：57 ページ参照



図 19 ダイズ吸実性カメムシ類

(左) イチモンジカメムシ、(中) トゲシラホシカメムシ、
(右) ホソヘリカメムシ

8 ハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の寄生株率は 5.8% で、平年 (1.8%) より高かった。(＋)
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋、早発)
- (3) 防除対策
- ・ 高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が拡大する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針：56 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の各種園芸作物における寄生虫数は平年と比べ、少なかった。(－)
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：68～132 ページのアブラムシ類の項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

（１）予報内容 発 生 量：やや多い

（２）予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 7 月 1 半旬～4 半旬の誘殺数はタマナヤガが 23.3 頭で
平年（22.8 頭）並、カブラヤガは 81.0 頭で、平年（66.5 頭）よりやや多かった。
（±）
- ・ 8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

（３）防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の 1 週間前までに刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 71～131 ページのネキリムシ類の項参照

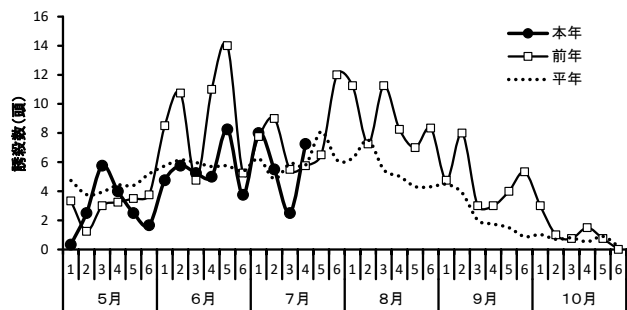


図 20 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

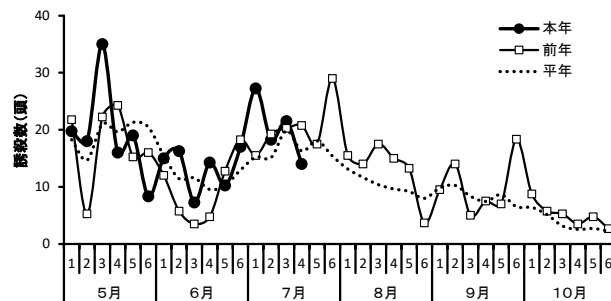


図 21 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

3 白ねぎのさび病

（１）予報内容 発 生 量：少ない

（２）予報の根拠

- ・ 7 月 25 日調査の発病株率は 2.4%で、平年（18.6%）より少なかった。（－）
- ・ 8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
- ・ 8 月 25 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。
（±）

（３）防除対策

- ・定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療剤で防除する。
- ・防除指針：99 ページ参照



図 22 さび病の病徴
（夏孢子）

4 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の発病株率は 2.4%で、平年（18.6%）より低かった。（－）
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
 - ・ 8 月 25 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 葉先枯れの防止や肥料が過不足にならないよう注意する。
 - ・ 防除指針：99 ページ参照



図 23 黒斑病の病徴

5 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の被害株率は 94.4%で、平年（42.6%）より高かった。（＋）
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 被害が多くみられる場合は、液剤等で直ちに防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 病虫害発生予察注意報第 5 号、防除指針：101～102 ページ参照



図 24 ネギアザミウマの被害葉

6 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7 月 25 日調査の被害株率は 0.8%で、平年（13.3%）より低かった。（－）
 - ・ 8 月 25 日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：100～101 ページ参照



図 25 ネギハモグリバエの産卵痕（左）と幼虫による被害

7 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月3半旬～5半旬の誘殺数は72.6頭で、平年(27.7頭)より多かった。
(+)
- ・8月25日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(+)



図26 中齢幼虫(左)と被害葉(右)

(3) 防除対策

- ・被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・病虫害発生予察注意報第1号、防除指針102ページ参照

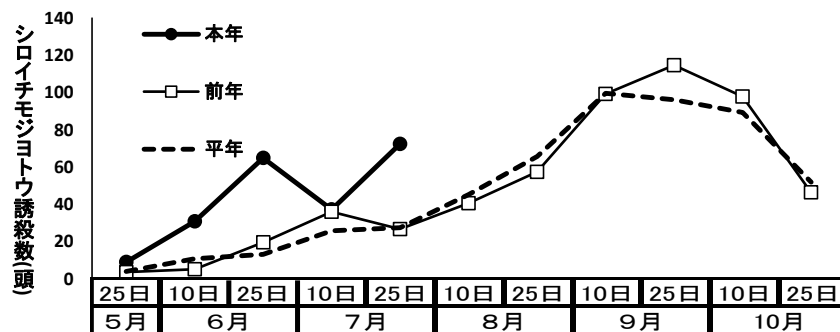


図27 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は4.8頭で、平年(24.3頭)より少なかった。(－)



図28 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等)を散布する。
- ・防除指針：りんご 137、142、145～146 ページ、日本なし 153、156～157 ページ
ぶどう 163 ページ、かき 164～165、167～168 ページ
もも 170～171、174 ページ参照

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 現在までの発生量は少なかった。(一)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策



図 29 葉の初期病斑（左）進行した病斑（右）

- ・ 降雨などにより薬剤の散布間隔が 10 日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・ 防除指針：137～140、144～145 ページ参照

3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・ 防除指針：139～140、144～145ページ参照

4 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は少なかった。(一)
 - ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策



図 30 炭疽病のり病果

- ・ り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80（800 倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・ 防除指針：137、139～140、144～145 ページ参照

5 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量はやや多かった。(+)
- ・8月25日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- ・8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的実施し、下草での増殖の低減に努める。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
- ・防除指針：142～143、145～146 ページ参照

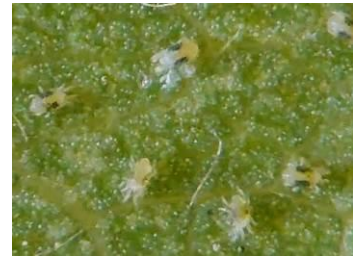


図 31 ナミハダニの成虫

6 りんごのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少ない。(－)

(3) 防除対策

- ・8月中旬(第3世代歩行幼虫発生期)は重要防除時期なので適期防除に努める。
- ・発生が多い園地では、オリオン水和剤(1,000倍)を散布する。
- ・防除指針：141～142、145～146ページ参照

7 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年よりやや少ない。(－)
- ・8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い場合は、収穫前にオーソサイド水和剤80(1,000倍、収穫3日前まで)を散布する。
- ・防除指針：149～152、155 ページ参照



図 32 黒星病のり病果

8 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 6 月 4 半旬～7 月 3 半旬の誘殺数は6.0頭で、平年 (3.2 頭) より多かった。(+)
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤 (2,000倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針 : 149、152～153、156～157 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量 : **やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 6 月 4 半旬～7 月 3 半旬の誘殺数は16.6頭で平年 (10.6 頭) よりやや多かった。(+)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤 (2,000倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針 : 149、152～153、156～157ページ参照

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並である。(±)
 - ・8月25日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
 - ・8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを定期的 to 実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする (アカリタッチ乳剤は除く) 。
 - ・防除指針 : 153～154、156～157ページ参照

1 1 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：152～153、156～157 ページ参照



図 33 ナシマルカイガラムシによる被害果

1 2 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は少ない。(－)
 - ・8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・り病した果房や葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられた際は、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：159～162ページ参照

1 3 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は少なかった。(－)
 - ・8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・り病した葉や新梢などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられる園地では、銅水和剤又はサンケイ園芸ボルドー（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：159～162ページ参照

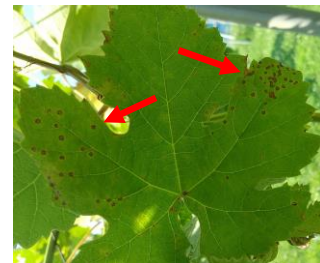


図 34 黒とう病のり病葉

14 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は143.5頭で、平年（84.0頭）より多かった。（＋）

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：164～165、167～168ページ参照



図 35 フジコナカイガラムシの雌成虫

15 もものモモハモグリガ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少なかった。（－）
- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は0.5頭で、平年（40.9頭）より少なかった。（－）

(3) 防除対策

- ・収穫終了後にサムコルフロアブル10（5,000倍）を散布する。
- ・防除指針：170～172、174ページ参照

16 もものナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。（±）
- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は29.5頭で、平年（21.6頭）よりやや多かった。（＋）

(3) 防除対策

- ・収穫終了後にサムコルフロアブル10（5,000倍）を散布する。
- ・収穫期間中に発生（新梢の芯折れ）がみられる園地では、ディアナWDG（5,000～10,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：170～172、174ページ参照

V 花き・球根

1 きくの黒斑病・褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の被害株率は0%で、平年(5.0%)より低かった。(－)
- ・ 8月25日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：191～192 ページ参照

2 アブラムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査のキクほ場における1葉虫数は0頭であった。(－)
- ・ 8月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：189～212ページのアブラムシ類の項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが14.7頭で平年(16.1頭)並であったが、オオタバコガは43.3頭で平年(20.2頭)より多かった。(＋)
- ・ 8月25日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 病害虫発生予察注意報第4号、防除指針：197～216 ページのタバコガ、オオタバコガの項参照



図 36 中齢幼虫(左)と被害花(右)

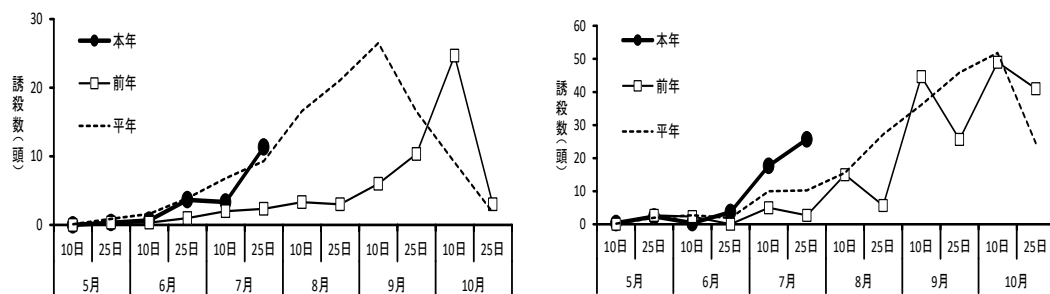


図 37 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左図：タバコガ 右図：オオタバコガ)

4 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

（１）予報内容 発 生 量：やや多い

（２）予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 7 月 1 半旬～4 半旬の誘殺数はタマナヤガが 23.3 頭で平年（22.8 頭）並、カブラヤガは 49.3 頭で、平年（66.5 頭）よりやや少なかった。（－）
- ・8 月 25 日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

（３）防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の 1 週間前までに刈り取る。
- ・定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針：197、213 ページのネキリムシ類の項参照

令和 7 年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4 月 1 日～9 月 30 日」

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

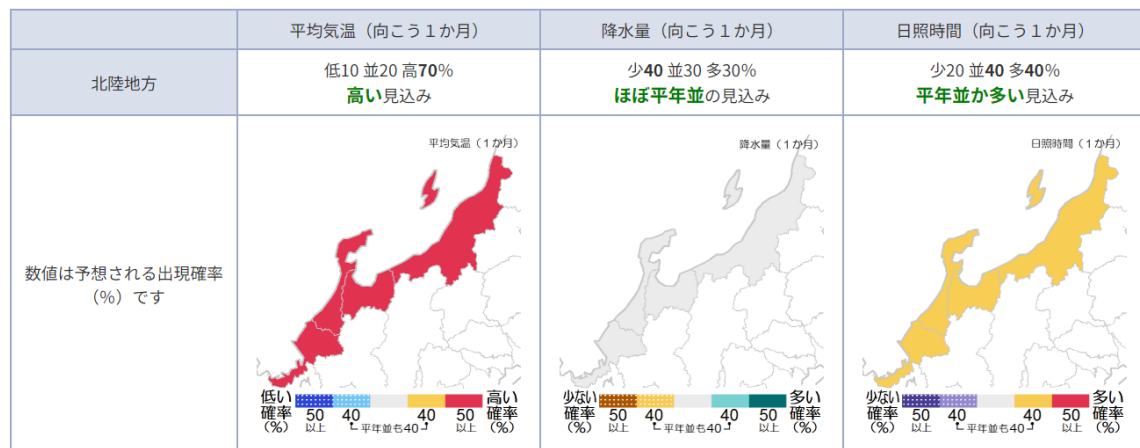
農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 7月26日～8月25日)

7月24日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 6月下旬から降水量が少なくなっています。期間のはじめにかけても太平洋高気圧に覆われて、降水量が少ない状態が続くでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

